

《担当者名》助教 / 上河邊 力 (心理科学部)

【概要】

心理学では、こころと行動の関連を明らかにすることを目的とする。本講義では、保健・医療・福祉分野で必要とされる心理学の基礎的な知見を概説する。この講義を通じて、心理学の各分野における基礎的な知識を身につけ、それらについて説明できるようになる。また講義全体を通じて、目に見えない心をどうやって科学的に研究するのか、その方法論を身につけ説明できるようになる。

【学修目標】

心理学の歴史、行動の生理的基礎、生物的基礎、学習、動機づけ、欲求不満とストレス、感情、知覚、記憶、パーソナリティ、臨床心理学、思考と言語など、代表的なトピックにおける基本的事項について理解し説明する。
目に見えないこころを科学的に研究するための方法について、理解し身につけ説明する。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	イントロダクション	心理学とは何か理解し、説明できる。 心理学の歴史について基本的事項を理解し説明できる。 心理学とはなにか 心理学についての誤解 心理学の方法 薬学準備教育ガイドライン (2)-	上河邊 力
2	パーソナリティー	性格とは何か、その記述方法、測定方法、さまざまな性格の理論について、基本的事項を理解し、説明できる。 性格の種類論と特性論、 性格検査法 薬学準備教育ガイドライン (2)-	上河邊 力
3	知能	知能の定義・理論、さまざまなアセスメント手法について説明できる。 薬学準備教育ガイドライン (2)-	上河邊 力
4	知覚	知覚と物理的世界の関係、主体的要因が知覚に及ぼす影響について、基本的事項を理解し、説明できる。 感覚と知覚の基本法則、感覚の種類、 ウェーバーの法則、フェヒナーの法則、 スティーブンスの法則、視覚 薬学準備教育ガイドライン (2)-	上河邊 力
5	知覚	知覚と物理的世界の関係、主体的要因が知覚に及ぼす影響について、基本的事項を理解し、説明できる。 聴覚、味覚、嗅覚、体性感覚、痛み 薬学準備教育ガイドライン (2)-	上河邊 力
6	学習	多くの生物種に共通の単純な学習や、古典的条件づ	上河邊 力

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
		<p>け、道具的条件づけについて基本的事項を理解し説明できる。</p> <p>強化、消去、般化、分化、自発的回復 強化スケジュール</p> <p>薬学準備教育ガイドライン (2)-</p>	
7	学習	<p>より高次な学習である観察学習、洞察学習、知覚運動学習について基本的事項を理解し、説明できる。</p> <p>運動学習、社会的学習、行動理論</p> <p>薬学準備教育ガイドライン (2)-</p>	上河邊 力
8	記憶と忘却	<p>記憶と忘却について、基本的事項を理解し、説明できる。</p> <p>短期記憶、長期記憶、 記憶の忘却、干渉、変容</p> <p>薬学準備教育ガイドライン (2)-</p>	上河邊 力
9	動機づけ	<p>基本的動機、派生的動機について、基本的事項を理解し説明できる。</p> <p>動因・誘因と行動、葛藤</p> <p>薬学準備教育ガイドライン (2)-</p>	上河邊 力
10	感情	<p>さまざまな感情と、感情の理論、感情が行動に及ぼす影響について、基本的事項を理解し、説明できる。</p> <p>表情と情動の種類、情動の機能 情動の発達</p> <p>薬学準備教育ガイドライン (2)-</p>	上河邊 力
11	ストレス	<p>欲求・欲求不満とストレスと、ストレスが及ぼす影響、ストレスへの対処について基本的事項を理解し説明できる。</p> <p>薬学準備教育ガイドライン (2)-</p>	上河邊 力
12	発達	<p>生涯発達に関する基本的な理論について説明することができる。</p> <p>ピアジェ、ボウルビー、ヴィゴツキー、愛着</p> <p>薬学準備教育ガイドライン (2)-</p>	上河邊 力
13	発達	<p>各年代ごとの発達課題について説明することができる。</p> <p>薬学準備教育ガイドライン (2)-</p>	上河邊 力
14	社会行動	<p>自己と他者、集団における人間関係について説明できる。</p> <p>薬学準備教育ガイドライン</p>	上河邊 力

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
		(2)-	
15	臨床心理学	臨床心理学におけるさまざまな学派について、その違いとそれぞれの特色を理解し、説明できる。 科学者実践家モデルについて、基本的事項を理解し説明できる。 薬学準備教育ガイドライン (2)- 関連するモデルコアカリキュラムの到達目標 A-(3)- -4, A-(3)- -1	上河邊 力

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

レポート・ミニテスト20%、期末試験80%とする。試験後は質問に応じる。

【教科書】

教科書は使用せず、適宜、電子化されたスライド資料を配布する。

【参考書】

「心理学への招待[改訂版]」（サイエンス社）

【備考】

各学生がすべての講義に出席することを前提に講義を進める。

講義に欠席した場合には各自の責任において、配布資料の有無などを確認し、必要に応じて担当者に問い合わせるなどの必要な対応をとること。

【学修の準備】

予習：各回の「授業内容および学修課題」に挙げられているキーワードについて、教科書、配付資料、参考書、インターネットなどを利用して事前に予習を行う。事前学習には80～90分かかることを想定している。

復習：学修内容を自分の言葉でまとめる。教科書、配付資料、参考書の当該部分を精読し、講義中に触れられなかった内容の補完や講義内容との統合を行うこと（80分）。

【薬学準備教育ガイドライン】

(2) 人の行動と心理

【 人の行動とその成り立ち】 【 動機づけ】 【 ストレス】 【 生涯発達】 【 パーソナリティ】 【 人間関係】

【関連するモデルコアカリキュラムの到達目標】

A 基本事項 (3) 信頼関係の構築

【 コミュニケーション】 【 患者・生活者と薬剤師】

【薬学部ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関連】

1. 医療人として求められる高い倫理観を持ち、法令を理解し、他者を思いやる豊かな人間性を有する。

【実務経験】

医療機関（精神科・児童精神科）主任心理師、札幌市スクールカウンセラー、臨床心理士、公認心理師

【実務経験を活かした教育内容】

精神科および教育機関における実務経験を活かし、可能な限り具体的に基礎から応用に及ぶ教育内容と臨床場面との関連について言及する。